

風土記の丘の花だより⁹³

今、そしてこれから見られる植物(2021年7月3日)

もう7月です。一年の半が過ぎたことになります。早いものですね。今年は梅雨入りが早かったですが、中休みも多くホントに長いように思います。



ユウスゲに次いで、ヤブカンゾウが咲き出しました。濃いオレンジ色で八重咲きの花です。特に、資料館左側の坂を登って行くと、アジサイと一緒に咲いているので、そのコントラストがとても美しく感じます。よく目立つ花なので、遠くからでも分かります。万葉植物園やその他色々なところで見ることができます。



資料館の下をくぐって階段を上ると、右側にピンク色の花が咲いています。インドハマユウの花です。アフリカハマユウとも呼ばれる園芸植物で、その業界ではクリナムというそうです。白色が多いそうですが、当館のものはこんな色です。ヒガンバナ科の植物で、名前こそハマユウですが、見慣れたハマユウとは色も形も違いますね。(園芸植物は、勉強不足でごめんなさい)



ヤブカンゾウのところで書いた坂で、見上げると鮮やかなオレンジ色のノウゼンカズラの花が満開です。上って行くときより、下りて行くときの方が見やすいですね。中国原産の木で、何と平安時代にはすでに日本に伝わって来ていたという記録があるそうです。もうすでに日本の風土にとけ込み、夏には無くてはならない風物詩となっていますね。



ナンテンの花が満開です。谷村家住宅の東側の垣根や、小早川家の庭などで見ることができます。いろいろな園芸品種があり、葉の小さなものはヒメナンテンと呼ばれますが中間的なものもあり、よくわかりません。写真のハチはクマバチ(別名キムネクマバチ)です。おとなしいハチで、向こうから襲ってくることはありません。ご安心を！
松下